革新する技術、創造する未来　～夢へ翔る 熊本高専～

熊本高専だより

題字：宮川英明 校長

第3号
平成22年8月

今号のテーマ
新一期生を迎えて

CONTENTS

◆ 新入生を迎えて
・校長あいさつ … 1
・後援会長あいさつ … 2

◆ 特別企画
・校長と学生会との懇談会 … 3

◆ 新入生から
・熊本高専に入学して … 6
・新専攻科に入学して … 8

◆ 新入生を迎えて
・主事から … 9
・共通教育科から … 11

◆ 新年度を迎えて
・センターから … 12

◆ 学生たちから
・学生会より … 14
・学外研修・工場見学等報告 … 15

◆ 新任者紹介
・熊本高専に赴任して … 17

◆ 諸だより
・保健室だより・事務部から … 20

◆ News & Topics
・最近のニュース … 22

01 巻頭のことば ～新入生を迎えて～

3時間のやらされる練習より、自らやる 30 分の練習

校長　宮川　英明

昨年 10 月、高度化再編によりスーパー熊本高専が誕生し、この 4 月大きな期待をもって本科（准学士課程）6 学科に 256 名､2 専攻からなる専攻科（学士課程）に 70 名、および既設学科に編入生 7 名、留学生 3 名の新高専最初の入学生を迎えることができました。さらなる教育の充実に向けて教職員一丸となって取り組みたいと心新たにしているところです。とはいっても、勉学の成果は学生諸君の意欲と努力に懸かっています。日常の勉強を楽しく継続し充実感・達成感を得て、次の意欲・努力へと繋げいい循環とするためには、早期に卒業後の自分の夢を探し定め、その実現のためのプロセスを具体的に設計することが大切です。

最近日本青少年研究所が行った、高校生の勉強に関する日本と外国の比較を紹介します。まず、生徒が好む授業では、(1) 教科書の内容をきちんと教え覚えさせる〔日本 71%、アメリカ 31%、中国 65%、韓国 40%〕、(2) 学生によく発言させる〔日本 33%、アメリカ 73%、中国 92%、韓国 52%〕という結果で、日本の高校生は知恵より知識中心暗記型の受身の授業を望む傾向が窺えます。高専の授業はこのような勉強とは異なり、体験学習を多く取り入れるとともに考えさせることを重視していますので、入学当初は戸惑うかも知れません。一方、姿勢については、(3) 授業中に居眠りをする〔日本 45%、アメリカ 21%、中国 5%、韓国 32%〕、(4) 授業中積極的に発言する〔日本 14%、アメリカ 51%、中国 46%、韓国 16%〕、(5) 習ったことを自分でもっと詳しく調べる〔日本 15%、アメリカ 37%、中国 48%、韓国 11%〕で、残念ながら日本の生徒は勉学意欲が低調で、勉強をやらされている感が強いようです。諸君はこのようなことはないと思いますが、もし、勉強しないと留年するからといったような消極的な学生がいるとしたら、勉強の面白さを実感できるはずもなく、成果も期待できないでしょう。

皆さんは専門学力と人間的魅力を高めて技術者として人々の幸せのために貢献するという明確な目標を抱いて入学したと思いますので、高校生や大学生よりも勉学に対する意欲や様々なことに積極的に挑戦するチャレンジ精神が旺盛であると信じています。夢の実現に向けて学年ごとに具体的計画を立て、階段を上るように一段一段歩を進め、将来、仕事の改善や新規の製品開発などを積極的に提案する創造的技術者になってほしいと願っています。高専時代はそのための基礎固めをする極めて重要なときです。授業への集中力と積極的な自己学習で知恵につながるレベルまで理解を深化させて下さい。

かつて新日鉄釜石のラグビーフットボール監督として 4 年連続日本一の偉業を成し遂げた森重隆氏は、「3 時間のやらされる練習より、自らやる 30 分の練習」が成果につながる、と経験に基づいた真実を語られました。勉強も同じです。自ら進んで集中した 2、3 時間の自己学習を日々続けあなたの夢を実現させましょう。

花を咲かそう

熊本キャンパス後援会　　会長　北島　愼二

新学科、新専攻のみなさん、入学おめでとうございます。

希望に満ちた学生諸君に言いにくいのですが、皆さんが入学してきた今、この時は、社会が落ち着かない、変化の激しい大変な時代です。政治も混乱し、経済も停滞しています。何より明るいニュースがなかなか流れてきません。学校教育も過渡期で、少子化の時代を迎え各高校、大学とも社会の変化への対応に苦慮しているようです。

熊本高専も昨年は八代高専と統合され、今年は新しい学科がスタートしました。みなさんは今、まさに芽生えの時です。多くの人と出会い、学んで、遊んで、いろいろな水を吸収してください。これからの学生生活では学年を追うにつれ、指示された勉強をするのではなく、自分の水は自分で探す力、地道な実験、考察、レポートから答えを求めていく能力が求められます。多大な努力が必用ですがこの能力を身につけた皆さんの先輩方は、社会や、多くの会社から高い評価を受け、この就職難の時代に高い就職率を得ています。これからの５年間で豊かな専門知識と問題解決、突破する能力を身に付け、大きな、大きな花を咲かせ、技術立国日本を再構築してください。

私たち保護者はその努力挑戦する姿を一歩外から見守ることしかできませんが、安心して学習できる環境を作っていきます。

最後に保護者の皆様方へお願いですが、奨学後援会は、学習、生活環境をより良くしていくために、保護者と学校とのパイプ役としてクラス役員を中心に活動しております。高専と学生を取り巻くことでご意見等ございましたら、どうぞメールでお寄せください。お待ちしております。

koen@kumamoto-nct.ac.jp

情報交換の場として…

八代キャンパス後援会　　会長　稲村　由美

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。保護者の皆様におかれましては、お子様のご入学を心よりお祝い申し上げます。

「熊本高専八代キャンパス」として第一期生となられる皆さんを、心より見守っております。大いに高専生活を謳歌して下さい。いつも笑顔でいられると素敵ですね。

さて、今年度の後援会活動としまして、◎年５回の理事会の開催　◎学生会との懇談会 (7/21 水)　◎熊本キャンパス後援会との懇談会 (7/31 土)　◎くま川祭り総踊りへの参加 (8/7 土)　◎保護者による工場見学研修 (10 月上旬)　◎高専祭への参加 (11/6 土 ,7 日)　◎卒業祝賀壮行会 (3/16 水) などを予定しています。

高専の後援会は、小中学校や高校のＰＴＡ活動とは違い、保護者が集まってクラスや学校の行事に参加するという機会が殆どありません。また多方面から入学の為、保護者同志の情報交換やコミュニケーションの機会もなかなかありません。そんな中で、私たち後援会としましては、保護者の皆様と触れ合い、学生たちの学校生活や就職状況などの情報交換が出来る場所になれば…と考えております。保護者による工場見学研修や高専祭が、その機会となります。たくさんの皆様に参加して頂きたく思います。

また、今年度から始まった緊急連絡網 (Ｋネット) を利用し、保護者の皆様へ色んな情報を発信していけたらと思っております。保護者の皆様が後援会の会員です。みんなで高専・学生たちを応援していきましょう。何かお気づきの点やお訊ねになりたい事などございましたら、お気軽に後援会のアドレス（下記）へメールを頂きますと、お返事させて頂きます。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

kouenkai@kumamoto-nct.ac.jp

校長と学生会との座談会

日時：2010 年 6 月 16 日（水）16:30-18:00
場所：熊本高専八代キャンパス　TV 会議室
参加者：宮川校長、神田副校長（熊本キャンパス）、斉藤副校長（八代キャンパス）
＜熊本キャンパス＞
学生会長 長田 大和（電子工学科 5 年）、副会長　今村 衣杜（情報通信工学科 5 年）、体育局長　坂井 潤（電子制御工学科 4 年）
＜八代キャンパス＞
学生会長　舟田 竜晟（生物工学科 4 年）、副会長　竹部 薫（土木建築工学科 4 年）、高専祭実行委員長　西川 翔（土木建築工学科 4 年）
司会：大塚／開 総務主事

「新高専はこうなる・こうしたい」

司会 —— 懇談会のはじめに、校長先生に簡単にあいさつをお願いします。
宮川校長（以下、校長）：新しい熊本高専が、昨年からスタートしました。これは学生の皆さんの協力があって可能になったものです。今後、5、6 年かけて新たな高専のスタイルが確立すると思いますが、これには学生諸君の力が必要になってきます。今日は、両キャンパスのいろいろな情報を交換して、熊本高専のこれからに活かせるような座談会にしてもらいたいと思います。

—— まず、お互いのキャンパスについて、どのようなイメージを持っているでしょうか？
KC 長田会長（以下、長田）：全体的なイメージとして、八代キャンパスでは運動や体育大会、文化祭などで学生自身が楽しめるような仕組みがうまく作られているように思います。そうした点で、学生の高いモチベーション、やる気がすごく感じられ、いいな、と思います。
YC 舟田会長（以下、舟田）：熊本キャンパスのイメージは、「頭がいい」、「勉強が難しそう」、「ロボコンが強い」ということ、あとは八代からちょっと遠いなぁ、と思います。

—— さて、昨年 10 月の新高専発足から半年余り経ちましたが、何か変わったところや気づいた点はありませんか？
舟田：大きく変わったという実感はありませんが、新高専のマークや 1 年生の体操服を見ると少しは変化を意識する場合もあります。でもまだ周りからは「八代高専」と呼ばれますけど。
長田：大体同じ意見です。ただ、熊本キャンパスは、校舎が新しくなりました。それで少し新しい学校になった感じがします。
KC 今村副会長（以下、今村）：それと、今年の 1 年生は、頭が良さそうに見えます。
校長：今年の入試は、倍率 3 倍で、全国 1 位でした。また、今年の特徴の一つとして、八代キャンパスで女子の割合が初めて 30% を超えたことが挙げられます。熊本キャンパスの女子の割合も 17% とやや増えました。もう一つは、全体で、熊本市内出身者が増えたことです。熊本キャンパスでは 50%、八代キャンパスでは 20% に増えました。

—— 学生の立場から新高専に期待することは何でしょうか？
長田：開校記念イベントを合同でやりましたが、二つの高専がせっかく一緒になったので、もっと共通の行事ができたらと思います。ただ、その後、具体的な話としては進んでいません。
神田副校長（以下、神田）：なにか具体的に話が上がってくれば、学校として全面的にバックアップしていきたいものです。昨年、ブラスバンドが合同演奏会をやりましたが、両キャンパスの学生さん同士は、とても達成感があったようで、演

奏会が終わったあと本当に名残惜しそうにしていましたよ。
舟田：八代キャンパスの学生としても、熊本キャンパスと何かできればと思います。学校には特に金銭面での援助をお願いしたいです。
校長：たとえば、熊本高専定期演奏会などを毎年１回どこかのホールを借りてやってみるということはできるでしょうね。
司会：昨年やってみて分かったことですが、両キャンパスを合わせれば、フルオーケストラができて、迫力がずいぶん違う。集まってやる意味は大きいですね。
校長：現在、社会が必要としているのは、体育祭などのイベントを企画して引っぱっていけるような人材です。今、そういう人材が少なくなってきている。両キャンパスでのイベントの合同開催はよい機会になるのではないでしょうか。
今村：クラスマッチを合同でやると盛り上がりがすごいかも。どのクラスが熊本高専全体で最強か、とか。
斉藤副校長 (以下、斉藤)：やり方としては、予選を各キャンパスでやって、決勝トーナメントをどちらかでやるというのもありますね。
神田：シンガポールに交流で行って、向こうの学生と話し合うだけではダメで、あとでサッカーやバスケをやったとたん仲よくなる。やはり、肌と肌が触れあう機会がある方がいいですね。
YC 竹部副会長（以下、竹部）：　以前から、校長先生にぜひお願いしたいと思っていたのですが、KK ウィング（熊本県民総合運動公園・陸上競技場）で両キャンパス対抗戦みたいなイベントをやってみたいです！！
司会：KK ウィングのような大きな会場でやると、いろいろな種目をやることができて応援のしがいもあります。……でもお金がかかりますね。
竹部：４年に１度というのはどうでしょう？
一同：オリンピックかワールドカップ！なるほど！！（笑）。
司会：つまり、在校中には一度はできるということですね。
校長、両副校長：それはいいねぇ。

―― 続いて、学生会として今年やれそうなことはないでしょうか？
今村：学祭は日程が異なるので、お互いに参加したいですね。
長田：お互いの招待はぜひしたいと思います。
神田：その他、お互いの学生会が得意にしていることや、例えばイベントの調整といったところなど、何か比較的手をつけやすいところでアイデアが出せると良いですね。
長田：熊本キャンパスでは、学生会役員の研修で山歩きがあるので、参加してもらって一緒に長い距離を歩けば、仲良くなれるんじゃないでしょうか。ただ、今年は再来週にあるんですけど (一同、笑)。
竹部：山登りに限らず、学生会同士でスポーツをやって交流する手もありますが、まずは学生会の交流からというところでしょうか。八代では花火大会もあるので、そういった時期でも良いですね。
斉藤：まずは電波祭・高専祭などで、お互い、ワンポイントの交流企画をやってみるのはどうだろうか？
長田：熊本キャンパスでは、ハモネプコンテストがあるので、お互いの学生会同士が対抗して歌うという手がありますね。
YC 西川委員長（以下、西川）：八代キャンパスでもコスプレ・美少女（女装）コンテストがありますので、ぜひ出場してほしいです。
司会：実際に出るとなると、お互いに調整が必要になりますが、今日の機会をきっかけにして、引き続き連携していってほしいですね。

八代キャンパス学生会（左から西川くん、舟田くん、竹部くん）

―― ところで、学生会役員は、みな高専祭にかかわっているのでしょうか？

西川：はい。役職に関係なく、１人１人がそれぞれ役割を持ってやっています。例えば、今年、会長はポスターを担当しています。

今村：熊本では、学生会でも独自の企画を行なう予定にしています。去年は、熊本高専になったこともあり、相談・質問コーナーなどオープンキャンパスのような学校紹介企画をしました。今年は、校舎が新しくなったこともあるので、中学生に見学ツアーで校舎をみせたり、学生生活を紹介したりできれば良いなと思っています。

熊本キャンパス学生会（左から坂井くん、長田くん、今村さん）

校長：そういった、中学生に学生生活の楽しさや面白さを紹介できるコーナーは、中学生が学校に対するイメージを作る良い機会ですので、ぜひやってほしいと思いますね。

―― その他、学校生活について、聞いてみたいことがありますか？

KC 坂井局長（以下、坂井）：　制服の統合をぜひ行なってほしいです。また、その際、学生会もぜひ参加させてほしいです。

校長：それぞれのキャンパスの制服が新しくなって間もないこともあり、実際の統合はもう少し先になると思います。今のところ準備期間も考慮して２年後くらいを目途に考えています。デザインなどについては、できるだけ学生の意見や感覚も取り入れて良いものにしたいですね。

坂井：制服は中学生にとって（学校選択の）判断材料にもなることがあるので、重要だと思います。かわいい制服だと女子の数が増えるとか。

今村：熊本キャンパスは今年から夏服のスカートがちょっとかわいくなった気がします。

司会：学生からの要望が多く、それを反映して修正を行なったと聞いていますね。

坂井：校長先生は、両方のキャンパスを行き来しているので、熊本高専の特色が一番良くわかってらっしゃると思うのですが、校長先生から見て、自分たち学生はどのように見えているのか知りたいです。

校長：高専生はどこも基本的には良く似ています。それは、挨拶を返してくれるなど非常にフレンドリーな点や、卒業した後も高専とのつながり、先輩後輩とのつながりが強いという点です。それは学校生活が５年間であるということ、15 歳くらいから割と自由に、自分の考えで行動していることによるのではないかと思います。高校まで受験の枠組みの中にいる大学生に比べ、この差は大きいと感じています。それが高専学生のバイタリティや、会社に入ってからの競争に勝っていく原動力になっているのではないでしょうか。

熊本高専で言えば、両キャンパスとも非常に人柄が良い。これは、どこにいっても一生涯大切な要素として残っていくだろうと思います。それから挨拶をしてくれる点。ただ、最近その数がちょっと減っている気がします。これは学生会で頑張ってコミュニケーションの基本として、自然と声が出るような学校の雰囲気に持っていってほしいなと思います。

―― 結びとして、これまでの話の内容を含め、熊本高専両キャンパスの学生会としての抱負を漢字一字で表現してください。

長田：熊本キャンパスは「活」としました。部活に入っていない人は部活にも入ってほしいし、学生全体には、勉強も頑張って、自分の人生を活発に生きていける人間になってほしいです。

舟田：八代キャンパスは「錬」です。まずは自分の心を鍛錬し、できたら周りも一緒に鍛錬して、その結果、学校生活や高専祭など純粋で良いものを作り上げていきたいと思います。

司会：本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

熊本高専に入学して

情報通信エレクトロニクス工学科　井澤　桃香

私が熊本高専に入学してもう２ヶ月が過ぎました。今までとは大きく違う高専での生活に最初は戸惑いましたが、今では随分慣れ、楽しい毎日を送っています。最近は本格的になっていく授業に、中学校までの「勉強」との違いを痛感しています。毎日のこまめな予習・復習の積み重ねがとても重要で、理解していないまま先に進むと後がきついと先生方が言われる理由がよくわかりました。後で後悔をしないように、これから頑張って行きたいと思います。また、寮に入ったことにより、日常生活もがらりと変わりました。毎日を家族以外と暮らすことに少し不安もありましたが、優しくて頼れる先輩方と、大好きな友達と一緒にとても楽しく過ごせています。私は今、高専に入学して本当によかったと思っています。素敵な先生方や先輩方、友達との出会いはもちろん、自分達で考え、行動する高専にしかない「楽しさ」があるからです。これから色々な事に挑戦して、高専生活を思い切り楽しみたいです !!

クラスマッチを終えて

制御情報システム工学科　前田　廉

春季クラスマッチは、ドッジボール、バレーボールとソフトボールの３競技が行われ、私はバレーボールに参加しました。短い期間でしたが、放課後にメンバーと練習した甲斐もあり、バレーボールの成績は４位でした。また、クラスの皆が頑張ってくれたので、全競技での成績は高校の部で２位になり、とても嬉しかったです。普段の生活では休み時間や放課後に数名と話す程度でしたが、競技を通して友人の新たな面を知り、友情がより深まったと思います。本校に入学当初は不安がありましたが、今では友人がいるお蔭で心強く感じています。それに、他の競技の試合があれば自然とお互いを応援し合い、クラス全体にまとまりが出来ました。また、クラスマッチは全学年が参加するため、先輩方から本校の話を聞く事が出来、今では先輩方から話しかけて頂けるようになりました。クラスマッチは楽しいだけではなく、今後の高専生活を送る上で大切な行事だと感じました。

新入生研修を終えて

人間情報システム工学科　松崎　成道

４月に、講話が１日、合宿研修が２日間の合計３日間の日程で新入生研修会が行われた。講話は、学校外部講師の方による「初対面でのコミュニケーション」の話で、「自己紹介では、名前、出身地などを言うルール」が印象に残り、今後の為になりそうだと感じた。２年早く知りたいと思った。合宿研修では、クラスや学年の人と親睦を深めることを目標に取り組んだ。長縄跳びは小学生にすら劣る記録だったが、練習で皆で話し合ったことが良かった。フットサルでは、全員がそれぞれ活躍しクラスの結束が見えた。ペーロン競争では、僕は舵取りで船を重くしただけだったが、他の全員の頑張りでトップでゴールできた。今回の研修で得たことはとても大きい。この得たことを今後の学校生活で発揮できるようにしていきたい。

熊本高専に入学して

機械知能システム工学科　　岩本　優

熊本高専１回生として入学してからもう２ヶ月が経ちました。入学当初はすごく不安でしたが、そんな不安な気持ちもだんだんわくわく感に変わり未だに膨らみ続けています。

高専に入学して大きく変わったことは勉強のスタイルです。共通教育科目は、中学生の頃にただ暗記していたことを「なぜそうなるのか」を考えて勉強していくので新たな発見がたくさんあります。また専門科目は、頭と手を動かしながらの作業で混乱することもありますが、面白くていつの間にか熱中してしまいます。ものづくり実習では、慣れない機械操作にびくびくしながら鋳鉄の加工をしました。その時、私は失敗しないようにと床に大量の計算（あまりの量にクラスメイトに笑われましたが）をしました。そしてついに完成した時の感動は今も忘れられません。

これからも高専では様々なことがあると思いますが、高専生としての自覚を持ちつつ、この生活を楽しんでいこうと思います。

熊本高専に入学して

建築社会デザイン工学科　　萱野　未和

合格発表の日、私はとても複雑な気持ちでした。受験は思ったようにいかず、不安になりながら開けた封筒には、「建築社会デザイン工学科合格」と書かれており、とても驚きました。期待していたものとは違ったけど、これから自分なりにここで頑張っていこうと思いました。

授業が始まり、建築社会デザイン科の一人として勉強していくうちに、「建築」の面白さが少しずつ分かってきて、自分はこの場所で学ぶことができて良かったと思うようになりました。そう思うと、専門科目の授業もより楽しくなり、自分の将来についても前向きに考えることができるようになりました。最初のうちは、ただ漠然と建築関係の仕事に就くのだろうと考えていましたが、「これから何をしてみたい」、「こんなことをやってみたい」と思うようになり、自分が興味を持ってことや面白いと思ったことを考えて、はっきりと「自分がどうなりたいか」について、またそれに近づくために自分にできることを探すことが必要なのだと考えるようになりました。

高等専門学校という早い時期から専門的なことを学べる環境で、できるだけ多くに知識を身につけ、将来自分のやりたいことを選べるように、今の時期から精一杯努力していきたいと思います。

熊本高専に入学して

生物化学システム工学科　　米田　まどか

私は以前から両親の職業である農業をめぐる問題に興味がありました。中学時代自分なりに勉強した結果、そうした問題を解決するのに生物工学の技術が重要な役割を果たしていることを知り、受験を決意しました。

無事入学することができた現在、勉強に悪戦苦闘していますが、専門的な教科を少しずつ学ぶことで自分の夢へと着々と進んでいることを実感でき、とても嬉しく思っています。

また、私は寮で生活をしています。共同生活は大変ですが、楽しく快適で規則正しい生活が送れるよい環境に身をおけることをとても有難く思っています。加えて、初めて親元を離れて生活することで、親の有難みを心から実感しています。

私の高専生活はまだ始まったばかりですが、常に向上心を忘れずに、夢に向かって頑張って行きたいです。

新しい専攻科に入学して

電子情報システム工学専攻
重藤　優太郎

昨年、電波高専は八代高専と再編統合され熊本高専となりました。私は今年度から熊本高専熊本キャンパス専攻科に入学したので、ここの第１期生ということになります。去年までは電子情報システム工学専攻、制御情報システム工学専攻の２つの専攻がありましたが、再編統合により熊本キャンパスには電子情報システム工学専攻のみとなりました。専攻科では本科と違い大半が選択教科になっています。専攻が１つになったことで、２つの専攻ごとに別れていた選択教科を自由に選べるようになり、自分の学びたい教科を選択することが可能となりました。また創造性や感性、人間性といった新しい分野の教科が多く、本科での教科を基盤とした発展的な教科、研究があります。専攻科での２年間という短い期間の内に、自由な感性、創造性を身につけられるように頑張りたいです。

新専攻科に入学して

生産システム工学専攻
前田　恭佑

専攻科に入学してから4ヶ月が経ちました。本科で5年間ともに学んできた仲間たちが社会人となってバラバラになり、少し寂しい思いもありましたが、他科に友達の輪が広がって最近の学生生活は充実しています。

新専攻科は昨年までの3専攻制とは違い、1専攻から自分の専門のコースを選ぶ形になっています。八代キャンパスの専攻科は、自分の専攻分野だけでなく他コースの分野も学ぶことができます。自分が専攻する分野は少人数で受けられ、他コースの分野も学ぶことで幅広い知識を身につけることができます。また、選択科目の数が多く、自分が伸ばしたい分野をより深めることができます。他コースの勉強は難しいですが、お互いに助け合いながら毎日頑張っています。

これからあと1年半、しっかり学んで、時には遊んで、卒業するときに「専攻科に進んで本当に良かった」と思えるような充実した学生生活を送りたいと思います。

留学生から

情報工学科　３年
ウォンソンサィ　ウィラユツ

【出身国】
ラオス
【ニックネーム】
イキュ
【学科・学年】
情報工学科・３年
【趣味】
絵を描くこと、アニメを見ること
【日本の印象】
日本人は優しい。日本は便利な国である。
【熊本高専で学びたいこと】
ゲームの作り方を勉強したい。
【初めて覚えた日本語】
「どこ！」
【好きなスポーツ】
テニス、バスケットボール
【熊本高専の先生・学生のみなさまに一言】
一緒にすごいゲームを作りましょう。

編入学して

機械電気工学科　４年
坂本　将太朗

私は、今年の３月に長崎県の工業高校を卒業し、熊本高専 - 八代キャンパスに編入学しました。この学校に初めて来た時には、敷地の広大さにとても驚きました。学校生活では、高校で学んできたものより、レベルの高い授業内容に苦戦していますが、新しい発見のある毎日はとても楽しいです。専門教科で高校ではしてこなかった範囲も、Ｍ科の先生方が補習をしてくれたり、クラスの仲間達が教えてくれたりするので、頑張れています。寮生活の方では、日課による規律ある生活のおかげで、自身の生活習慣を改善することができました。また寮内では、クラスメイトの他にも先輩や後輩など、様々な人と接する機会があり、毎日楽しく生活できています。４年生では、すぐに進路についての取り組みが始まってくると思うので、自分の目指す職に就けるよう、勉強を頑張っていきたいと思います。

04 新入生を迎えて

新学科スタート

教務主事（八代キャンパス）　渕田　邦彦

昨年10月に開校された熊本高専は、2010年4月に新入生を迎えて、いよいよ新学科のスタートとなりました。両キャンパスで128名ずつ計256名の新1年生が入学しましたが、それぞれ従来より1学科少ない3学科体制で、八代キャンパスでは専攻科新入生34名、留学生2名および編入学生3名を加えて、新入生総数は昨年の209名より少ない167名、熊本キャンパスでは専攻科36名、留学生1名および編入学生4名で新入生総数は169名(昨年206名)となっています。本科が完成年度となる4年後まで学年進行で在学生総数は減少しますが、教育内容を充実して学力レベルを向上させ、新高専として発展していきたいと思います。

新1年生は、熊本高専最初の入学者選抜試験の関門を突破して見事入学を果たしました。入学者選抜では、推薦選抜は両キャンパス別での実施、学力選抜は両キャンパス共通の統一した選抜方法での実施でした。受験倍率が昨年より高くなり厳しい関門となりましたが、それを突破して合格した新入生のみなさんへの周囲の期待は大きいといえます。

新学科は、情報・電子・通信・制御などＩＣＴ教育を特徴とする熊本キャンパスの３学科と、複合学科として幅広い専門性とその融合・複合を特色とする八代キャンパスの３学科から構成されています。新学科で育成する人材像は、高い社会貢献意識と健全な精神かつ国内外を問わずにその技術力を発揮できる豊かなコミュニケーション能力を備えた技術者で、各学科では、専門分野はそれぞれ異なるものの、新しい技術分野を視野にいれた、実践的技術者の育成を目指しています。機械知能システム工学科では、「ものづくり」に貢献できる総合エンジニア、建築社会デザイン工学科では「地域づくり・まちづくり」に貢献できるデザイン能力を身に付けたエンジニア、生物化学システム工学科では「先進的で高度なものづくりシステム」に貢献できる実践的バイオ・ケミカル技術者、情報通信エレクトロニクス工学科では、通信・ネットワーク、マルチメディアおよび半導体デバイスから回路システム設計までの技術を身に付けた技術者、制御情報システム工学科では、統合システムの設計・開発能力を持った実践的技術者、人間情報システム工学科では、人間の社会活動や生活に役立つ情報システム構築能力を持った実践的情報系技術者、の育成を目指しています。

熊本高専には、地域の産業界や教育界と連携しながら産業振興や人材育成の拠点として貢献し、学生教育の充実を図るため、地域イノベーションセンター、ＰＢＬ・総合教育センターおよびＩＣＴ活用学習支援センターが設置されています。これら３センターは、地域との技術研究、民間企業との共同研究、ＰＢＬ利用教育、企業との共同教育や地域との連携教育、キャリア教育、ｅラーニング教材開発などを通じて、学生の教育・研究を強力に支援することが期待されます。

新高専のカリキュラムは学年進行とともに段階的に展開されていきますが、カリキュラムに基づいた教育活動の実践に必要な教務関係規則のいくつかについては両キャンパスで共通化を図っています。また成績処理などを含む教務関係の事務処理のための教務システムを共通で導入しています。教務関係規則や各種書類様式等で未整備のものに関しては両キャンパスで調整を検討しているところです。

以上のように、新学科はスタートしたばかりで、今後、学年進行に伴って徐々に新学科の体制が整っていく予定です。新入生および既設学科在校生と教職員とが一体となって、まずは完成年度を目標に、新高専の発展を目指して努力していきたいと思います。関係のみなさまのご協力・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

スーパー高専のモデルたち

学生主事（熊本キャンパス）　古江　研也

高度化再編により熊本高専が誕生して半年が経った今春、改修された真新しい校舎にぴかぴかの新入生を迎えることができました。「新しい」が３つも重なり幸先のよいスタートとなりました。以下、スーパー高専の将来を担う新入生の印象を紹介致します。

「すごい！！」「レベルが高い！！」。新入生に対するそんな声が聞こえてきます。担任、教科担当者、学生会執行部、さらにはややプレッシャーを感じている２年生からも異口同音の評価です。具体的に尋ねてみると、こんなふうです。“HRでも発言や活動が自主的で、気が利いている”“積極的に質問し、演習をやらせても優秀”“女子同士で群れたりせず、男女の関係なくさばさばしたつきあいができている”　もちろん、高専での勉強のやり方に悩んでいる人はいます。それでもその壁を越えようとするパワーが今年の新入生にはあるようです。

新入生に対してのオリエンテーションや１泊２日の合宿研修においても個々人が、自主性と自律性を自覚し、集団になってもそれが崩れないことを実感しました。整列の練習に至っては、予定より早く切り上げるほどでした。天草青年の家で先生方と食事をしていたら、隣の学生が私達の分までお茶を注いでくれました。そんなことが構えもせずにできる学生たちです。

さて、３倍近い倍率の入試を突破してきた俊英たちを鍛え、トップクラスの技術者として卒業させる責務を学校は負っています。“信技対”即ち、信頼され、高度な技術力を体得した、対応能力を備えた学生を輩出することによって、スーパー高専のモデルを目指します。卒業時には「新しい」がもう一つ付け加わることでしょう。

新入生を迎えて

寮務主事（八代キャンパス）　五十川　読

４月に新入寮生を迎えて３ヶ月が経ちました。本科の１年生、新留学生、専攻科１年生、編入学生と年齢も国籍も様々な学生たちが寮での生活をスタートし、最初の定期試験である中間試験も終了してようやく寮の生活に慣れてきた頃です。とりわけ中学を卒業したばかりの本科１年寮生にとっては、初めて親元を離れて生活することになり、本人はもちろん、保護者の方々もさぞご心配なされたのではないかと思います。

初めて寮生活をする学生にとっては、毎日の授業の他に、当番の仕事があり、避難訓練や除草作業といった寮行事に加え、毎朝寮内の共用スペースを清掃し、寮の日課に従って生活し、洗濯や部屋の清掃・整理も自分一人でやらねばなりません。さらに、慣れない新しい人間関係の中に身を置くことで当初は相当のストレスがあったと思います。

しかしながら、寮生活には多くのメリットがあります。本校で学び巣立って行く学生諸君にとってはいずれ親元を離れて生活するときが来ます。また、就職すれば会社の寮に入ることもあるでしょう。そのことを考えると、寮生活は社会に出るためのリハーサルとして絶好の場を提供しているといえます。ある程度日課を決めて規則正しいリズムで生活する習慣がいち早く確立されていれば、社会人としてスタートする際に、人より一歩も二歩も先んじていること間違いなしです。さらに、近年就職の際のキーワードの一つとしてコミュニケーション能力があげられますが、寮のような、否が応でも自分以外の人と協力し、コミュニケーションをとらないと生活できない場においては、自然とコミュニケーション能力も身に着きます。そしてなによりも、他では得ることのできない一生の友がたくさんできます。

寮生活は、決して楽で楽しい事ばかりではありません。しかし、寮生活が寮生の皆さんにとって、これからの人生に大きくプラスとなるよう願って止みません。

共通教育科の対応

共通教育科（熊本キャンパス）　八田　茂樹

熊本キャンパスに新入生を迎えて約４ヶ月が過ぎようとしている。その間改修なった新校舎に新入生の声がこだましているという感じである。１号棟（旧校舎棟）の中廊下が明るくなったこともあり、学校全体が以前より明るくなったように感じるのは筆者だけではなかろう。

さて熊本キャンパス共通教育科では新入生を迎えるに当たり、きめ細かい学生支援体制を構築するべく、担任と学年主任を分離し、学年主任は１学年全体を見渡し、各担任をサポートすることに専念できるようにした。これは２年生も同様である。その結果、以前に増して担任会が頻繁に開かれ、１年では保護者懇談会の前に学年集会を開催、外部講師も呼ばれた。２年では１年生の合宿研修の時期に今年始めて校内研修を実施した。２年生の学年始めは、組替えしたばかりで学生がおとなしくなるのが例年の傾向であったが、これを機会にクラス内の交流が進み、クラスの雰囲気作りに目立って効果があったようである。さらには１年の学年集会で学年主任の話の最後に「高専サロン」の御案内をしたところ、当日（５月 29 日）全 49 名のうち、１年の保護者が十数名参加され、学校と保護者の距離が近くなっている兆しがみられている。また１学年では学級通信も定期的に発信されている。数年前から月１回の共通教育科の学科会議では必ず１・２年生の学生について情報交換をして、学生の抱える問題について教員間で問題を共有して問題を深めたり対策を考えたりしている。その積み重ねの上に上記のようにそれぞれの学年で新機軸を打ち出されているので、教職員各位・保護者の皆様には、低学年の教育体制に今後とも温かい声援を賜れば、共通教育科としても勇気百倍で推し進めることができるといったところである。

１期生が創り始める伝統！

共通教育科（八代キャンパス）　久保田　智

新設学科の１期生となられた新入生の皆さん、入学おめでとうございます。毎朝のＣＴ (Communication Time) で、担任と挨拶を交わして始まる 100 分授業にも慣れた頃でしょう。クラスメイト、クラブや寮の先輩、友人達と一緒に充実したキャンパスライフを過ごしてください。

高専では、共通教育科目をバランスよく開講しています。低学年で高等学校に準拠した科目を学習し、高学年になると大学レベルの科目を学習します。さらに、八代キャンパスでは情報処理などのＩＣＴ科目を学習します。共通教育により、専門科目の修得に必要な基礎学力を定着させ、社会人として必要な知識や教養を身につけます。

共通教育科には 20 数名の先生がいます。担任は、これまでに多くの先輩たちを育ててこられた経験豊かな先生方です。寮務主事、総務主事、センター長、学生相談室長、学生募集室長、進路支援室副室長、クラブ顧問などで、多くの先生方が皆さんの学生生活をサポートする役割も担当しています。教員室はホームルームの目の前です。放課後のオフィスアワーは学生のための時間として在室していますので、勉強や学校生活の相談などに気軽に訪ねてください。悩みがあるときには担任や保健室が学生相談の窓口になっています。

八代キャンパスは 1974 年創立の八代高専を前身としています。当時、勉強やクラブ活動に熱中していた先輩たちも既に 50 代になり、企業や官公庁などの技術者、高専の先生などとして活躍しています。その活躍が高専生の評価を高め、現在の 100％近い高専の就職率が維持されています。これまで培われた伝統をさらに発展させ、皆さんの力で熊本高専としての新たな伝統を創ってください。期待しています。

イノベーション元年

地域イノベーションセンター長　小山　善文

昨年 10 月の新高専の設立に合わせて地域イノベーションセンターがスタートして約 10 ヶ月が経ちました。高専の重点課題の一つである地域連携・貢献の推進を担うのが当センターのミッションです。八代と熊本電波両キャンパスで今までに培って来た現場志向のポテンシャルを一層高めながら、従来の枠組みを超えた様々な分野での連携を目指します。オープニングとして、「熊本高専発ワークショップ：イノベーションをリードする強い特許の創出と活用を目指して」、「第 1 回地域イノベーションセンターシンポジウム：地域に根ざした環境共生社会を考える」、さらに、「第 1 回半導体・デバイスフォーラム」を外部向けに開催しました。また、新たに「高周波技術者養成入門講座」、「ものづくり分野の人材育成講座」、「3D-CAD/CAE/CAM 講座」の社会人講座を開講しました。

今年度は、「第 2 回地域イノベーションセンターシンポジウム in 八代」、「第 2 回半導体・デバイスフォーラム」などを開催します。社会人講座では 3 講座に加えて現場ニーズの高い講座をさらに開講して地域の人材育成にも力を入れる予定です。また、九州・沖縄地区 9 高専の拠点校としての活動として、九州産業界と高専との出会いの場を設け、その中から産学民連携の可能性を探ることを計画中です。

21 世紀の最大の関心事は、人を取り巻く環境を如何により良くしていくかにあります。環境にやさしい技術、人にやさしい技術の取り組みを多角的に考えて、それを地域と連携して地域から発信していくことがセンターの役割と考えます。そこには教員のイノベーションや知的財産に関する創造力、及び、学生の柔軟な発想力があって初めて成り立つものです。熊本高専が持つポテンシャルを広く地域に活用していただくために、皆様のご支援をよろしくお願い致します。

活動の目指すもの

PBL・総合教育センター　大河内　康正

本センターは、昨年 10 月から活動を開始したばかりの組織で、「PBL 利用教育」、「国際化教育」、「キャリア教育」、「科学技術教育支援」の 4 事業部があり、それぞれ継続的に独自の活動を展開しています。これらの活動を通して、総合的に高専教育の改善を目指しています。

高専では、特に将来職業上で役立つ科目を学んでいるはずなのですが、誰もが真剣な取り組みができているわけでもありません。やる気が足りない学生を見るにつけ、彼らが意欲的に取り組むようになるにはいかにしたものかと日々考えています。在学中はもちろんですが卒業後も彼らは技術者として絶えず新しい知識や技術に接することになります。現状の学生の取り組み方で果たして将来は大丈夫だろうかと不安になります。

学生に興味を持たせ、みずから知的活動に向かわせる授業展開をするためには、いくつかのポイントがあります。一方通行に近い講義は、もっと対話形式を取り入れる。実社会に関係する身近で現実的な問題を取り扱う。ペーパーテストのみでの成績評価を実社会での評価に近い形に改める。実験または体験を取り入れる。実験するといろいろなことが分かるが、疑問も湧く。実験は幅広い思考や発見のための装置となる。いろいろな人と問題解決について話し合い、役割を分担し、共同作業をする。話し合いでは、考えたことを発表し、他の人に伝達する必要がある。グループの話し合いは、各人の頭の中だけで創造したものよりはるかに豊かな発想が生まれる。

PBL(Problem Based Learning) 教育は上記の要素を組織的に取り入れた教育方法の一つであり、生涯にわたる技術者教育の必要性から生まれたものです。本センターでは、教員研修会などを通して、新しい教育方法の導入を推進し、支援したいと考えています。

ICT 活用学習支援センター

副センター長　三好　正純

４月には新入生を迎え、特に今年は校舎の一部が新しくなり呼び名も変わるなど、例年にも増して新年度の新鮮さを感じます。そのような中、ＩＣＴ活用学習支援センター（以後、センターと呼ぶ）もいよいよ活動が本格化します。以下ではセンターの活動概要と今年度の予定についてご紹介します。

本センターは昨年10月に設置され、コンピュータネットワークを基盤にＩＣＴ（情報・通信技術）を活用して本校および地域の教育・研究活動を支援することを目的としています。主な業務は、ネットワーク基盤の整備および管理運営、教育改善として学生が放課後や自宅からも利用可能な Web 教育システムの運用、自学学習に役立つ e-learning 教材の開発支援、また従来の図書館業務である図書・学術情報の収集と活用・管理などがあります。なお、図書館を含むことに違和感もありますが、蔵書管理や情報検索にはコンピュータによるデータベースやネットワークが欠かせません。また近年の電子書籍や学術論文の電子化などＩＣＴとの関わりは益々強くなっています。このようなことから図書館をセンターの中に置いています。そのほか、熊本キャンパス―八代キャンパス間の遠隔授業やテレビ会議など、キャンパス間ネットワークの管理・運用も行っています。さらに、ＩＣＴ関連の公開講座やセミナーの実施、インターネットなど広域ネットワークを利用した学術情報・教育教材の提供など、地域企業や一般市民の教育・研究活動にも貢献したいと考えています。今年度の校外向け活動としては、熊本キャンパスでは全国の高専教職員を対象とした Web 教育システムの活用に関するワークショップと、一般市民を対象としたＩＴ講習（パソコン教室）の開催を計画しています。また、八代キャンパスでは中学生を対象としたプログラミングコンテストと関連セミナー、一般市民を対象としたメールや文書作成のセミナーなどが予定されています。

新年度を迎え本格始動した本センターを、どうぞ宜しくお願い致します。

技術センター

技術センター長　河崎　功三

表題の「技術センター」は聞きなれない名前だと思います。昨年の統合後、熊本キャンパスの技術室と八代キャンパスの技術室が統合されて出来上がった新しいセンターです。

業務内容は教育部門と地域連携部門での技術指導です。教育部門では学生の実験、実習、課題研究の技術的指導、地域連携部門では民間のコンクリート等の試験を行う建設材料試験所の支援、地域・民間企業との技術相談・支援です。業務内容が技術支援なのでメンバーは金属加工のプロや計測の熟達者で占められています。

昨年度は統合初年度でありましたが、技術室の統合もスムーズに運び教育部門・地域連携部門の事業も問題なく行われました。教育などの日々の業務以外に本校の PBL センターと協力して地域の児童を対象にした実験工作講座である「わいわい工作わくわく実験広場」でキーホルダー作り、地域商店街でもの作り教室、熊本県産業ビジネスフェアー参加など技術指導にかかわる多くの場に参加する機会に恵まれました。また、機械工場では古い機械の更新や最新鋭機械の導入が行われ、先端技術の教育・地域連携に活躍しています。

昨年度は技術センターとして充実した１年でした。本年度も６月には「わいわい工作わくわく実験広場」で水俣のろうそく作りの実演を、秋には八代市役所および本校の機械知能システム工学科とタイアップし若手技術者養成として「CAD/CAE/CAM 講座」を行う予定になっています。技術センターは、本年も昨年度に劣らず技術指導にかかわる多くの場に参加し、少しでも貢献できればとがんばっております。

学生会活動報告（Ⅱ）

学生会会長（熊本キャンパス）　長田　大和

学生会会長として最高学年となってからは、クラスマッチや地域行事、部長会議など学生会が中心となり頑張ってきました。仕事はまだありますが、これからも学生会役員と共に学校を盛り上げていこうと思います。

さて、今月までの学生会報告ですが、今年の５月にクラスマッチを行いました。熊本キャンパスにおいてのクラスマッチの存在はとても大きく、全学生が昼休みや放課後・空き時間を利用し、練習を行い行事に臨みます。商品のお菓子の量がとても多いこと、男子学生が多いということもありクラスマッチ当日は、ほぼ全学生が各競技に参加、応援し、各クラス燃えるような勝負が行われました。特に今年は例年以上に盛り上がりを見せました。応援や練習によるクラス同士のつながり、試合による上下のつながりなど、こういった行事を行うことで学生を盛り上げていけたらと思います。

６月には、地域の方々を呼んでの梅ちぎり行事を行いました。毎年、この時期になると行うのですが、学校にある梅の木を利用した行事です。ビラ配りに始まり、地域の方々との会話など交流を深めることが出来ました。また熊本・八代共同イベント（歩行会）も６月に行われ、８月には全国の高専の学生会が集まる交流会も開かれる予定です。地域密着した熊本高専をもっと全国に発信していきたいです。

８月下旬には全国高専大会が開かれます。熊本キャンパスからもいくつかの部活が全国大会に出ます。特に、私を含めた５年生は高専最後の大会になるので悔いの残らないよう全力を尽くしてもらいたいです。（私の所属するハンドボール部に関しては優勝したいと思います!!）敗退した部の思いを引き継ぎ、日々の練習を頑張り、そして全国という場を楽しんできて下さい。

これからの学生会活動においても、常に新しいことに挑戦していき、様々なことをやっていきたいと思います。学生同士のつながりを強くするという公約のもと学生を盛り上げていきます。共に熊本高専をよくしていきましょう。

学生会から

学生会会長（八代キャンパス）　舟田　竜晟

みなさんこんにちは。八代キャンパス学生会会長の舟田です。先日の５月２５日の学生総会で、学生会役員の承認と今年度の予算案の承認が行われ、無事学生のみなさんの承認を得ることができました。正式に学生会役員が決まり、いよいよ自分たちの学生会がスタートしたと思うと身の引き締まる思いがします。また同日に行われた球技大会は、ドッジボールで２Ｃが上級生を抑えて２位になるなど例年以上の盛り上がりを見せたと思います。新入生のみなさん、初めての球技大会はどうだったでしょうか？また入学して４ヶ月がたちそろそろ高専での生活にも慣れ少し余裕が出てくるのではないでしょうか。

６月１６日に、校長先生と熊本・八代両キャンパスの会長、副会長らを交えた懇談会が行われました。昨年１０月の熊本高専誕生の記念式典から、はや１０ヶ月が経とうとする中で新しい学生会役員が顔を合わせるのは初めてでした。それぞれのキャンパスに対してお互いが持っているイメージや文化祭、球技大会といった行事についてなど他にもさまざまな意見を交換することができました。
そんな中で、熊本と八代が一緒に何かできることはないか？という意見が多く出ました。これは学生会としてもぜひ実現させたいと思っています。しかし、いきなりは難しいと思うのでまずは両学生会から交流を深め、やがてはキャンパス同士で交流ができればと思います。

１年間で最も大きい行事でもある高専祭まであと３ヶ月程度となりました。学生会の方でも、スポンサー探しなどの準備を早い時期からやってきました。夏休み明けには実行委員も含め、学生みんなで高専祭の準備に取りかかることになります。熊本高専八代キャンパスとして記念すべき第１回目の高専祭となるので、ぜひみんなで成功させましょう。

学外研修に参加して

機械電気工学科　３年　　大中　貴文

私たちは、学外研修でアイシン九州とグリーンパークえびのに行ってきました。アイシン九州は、トヨタ自動車の自動車部品や、液晶・半導体製造装置を作っている会社です。従業員の数が多く、製造ラインが動いている現場を見ることができ、いい経験になりました。ここでは、レクサスの部品も作っていて、その現場も見せてもらうことができました。レクサスは、かなりの品質が要求され、生産工程もかなり改良が重ねられたようで、会社の熱意を感じることができました。

グリーンパークえびのでは、いつも飲んでいるコーラやお茶、コーヒーなど、コカ・コーラ社製品の生産工程を見ることができました。驚くほどに従業員の数が少なく、ほとんどが機械での作業でした。厳しい品質管理と環境への配慮がなされ、非常に興味深かったです。最後にはコカ・コーラ製品をたくさん飲んできました。

この学外研修では、生産者のものづくりに対する熱意、真剣な態度を肌で感じることができました。あと数年後には、自分も生産者の立場にいるので、これからの学校生活でしっかりと力をつけていきたいと思いました。

学外研修を終えて

土木建築工学科　３年　　大重　岬

スクールバスが福岡市の都心部を走りぬけ、都市高速を降りてしばらく経った小高い丘の上に、前衛的な建築物が立ち並ぶ九州大学伊都キャンパスがありました。切り開いた山々や造成している平地の中、多くの重機が入り込んでいて、発展途上の街並みを見ることができました。敷地内に信号機があり、さらに歩いて見回ってみると、書店やコンビニエンスストアなどもあって、キャンパス全体が一つの街のようになっていました。とても快適な学生生活が送れると感じ、羨ましく思いました。キャンパスの環境への配慮についての説明では、地下水への雨水の浸透を妨げないため、アスファルトを透過性にしたり、雨水が洪水となって低い土地へ流れ込まないように貯水池を造っていたりと、土木的な観点からの防災・環境についての工夫を聞くとともに、雨水を処理水としてキャンパス内に供給するシステムもあるなど、まさしく一つの街であると思いました。私は、進学には興味がありませんでしたが、九州大学には就職した後も社会人入学ができると聞き、今後の私の人生の中で、新しい進路が開拓できた良い経験となりました。

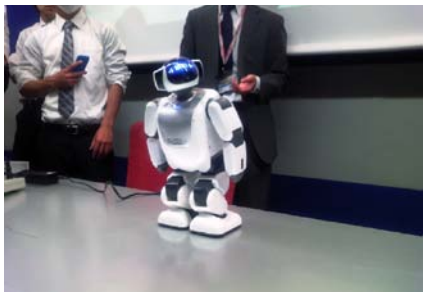
工場見学旅行

機械電気工学科　４年　　肥田　幸大

今回は、工場見学旅行ということで４泊５日の日程で大阪と東京にある４つの工場を見学した。１日目は大阪にある神戸三菱重工に行った。ここは主に貨物船などの大きな船を作っている。全長300メートルもの大きさはとても迫力があった。２日目は大阪ガスを見学した。ガスという普段何気なく使っているエネルギーがどのように作られているかを学ぶことが出来た。その後、ポンプを主に取り扱う西島製作所も見学した。３日目は東京に移動するだけの日で、午後からお台場を散策した。フジテレビに行ったり、クラウン・マジェスタに試乗したりと、充実した一日を過ごした。またここのホテルがすごく豪華で朝食が2800円(笑)だったり、窓からお台場を一望出来たりした。東京では、業務用の冷蔵庫などを作っている前川製作所を見学した。今回の工場見学で「もの」を作ることの面白さ、大変さを再認識することができた。これから初まるであろう就職活動に役立てていきたいと思う。

工場見学旅行を終えて

情報電子工学科　４年　　太田　涼



私たちは、５月９日から 14 日までの六日間、工場見学旅行のため九州、関西、関東地方へ行ってきました。実際に会社や工場内で話を聞き、そして業務内容を拝見することで授業では学べない貴重な体験になりました。その中でも、すごく衝撃を受けたことがあります。13 日に見学した富士ソフトで、富士ソフトが開発した PALRO(パルロ) というロボットを見せてもらいました。そのロボットは自ら動き、周りの人の顔を認証し、声をかければコミュニケーションをとり、メールを読み上げ、さらには地方の天気までも教えてくれるという性能に自分は呆気に取られました。それに、このような最先端の技術が生まれる職場や仕事風景を見て雰囲気に触れることで、実際に自分が働くときのイメージを描く良い材料になりました。工場見学旅行で得たこれらの経験を生かし、自分の就職活動やこれからの進路に役立てていきたいと思います。

仕事とは？

土木建築工学科　４年　　竹部　薫

４年土木建築工学科は、工場見学で福岡、富山、石川と東京に行くことができました。（福岡以外初めての場所でした。）

私が１番印象に残って感動したのは、「黒部ダム」です。そこは NHK の「プロジェクト X」で取り上げられた場所で、標高 2700 メートルの立山の尾根をブルドーザーで超える前代未聞の挑戦も行われたところです。初めての黒部ダムを見て「すごい」という感動が出てきました。黒部ダムを造るのにあたって、多くの作業員が亡くなられました。とても危なく、危険だったでしょう。しかし、黒部ダム作業員の方々は黒部ダムに立ち向かいました。「人のために」この一心で。

今回、黒部ダム（富山）、アイランドシティー（福岡）そして国土交通省（東京）などの見学・講義を受け、感じたことは全ての仕事は「人のため」に行われているということです。
土木・建築はそのいろいろな仕事の道筋になっていました。

工場見学に参加して

生物工学科　４年　　園瀧　誠一

５月 10 日から５日間、出光興産（株）徳山製油所、ダイキン工業（株）淀川工場、生命誌研究館、花王（株）すみだ事業所などを見学させていただいた。出光興産（株）徳山製油所は原油からＬＰガス、ナフサ、灯油、軽油などを製造しており、企業の歴史、安全対策システムについての話を伺い、敷地内のプラントを見せていただいた。教科書に書いている内容を実際に見ることで理解が深まった。ダイキン工業（株）淀川製作所では、フッ素化学製品の説明を受け、プラントを見せていただいた。化学工場のため安全意識が非常に強く、環境対策も考慮した運営をされていることを感じた。生命誌研究館では、普段学んでいる生物が模型やパネルでわかりやすく展示しており楽しい時間を過ごす事が出来た。花王（株）では、消費者のことを考えた製品づくりがなされていることに感銘を受けた。

今回の旅行を通して、学校で学んでいることは決して無駄ではないということを感じ、実際に目で見て、働いている人たちの話を聞く事で、初めてわかる事があると学んだ。

07 熊本高専に赴任して（新任者紹介・人事異動）

母校に赴任して

情報通信エレクトロニクス工学科
角田　功

情報通信エレクトロニクス工学科に赴任致しました角田と申します。私は、本校電子工学科出身でして、平成９年に卒業後、大学／大学院、企業を経て、本年４月、母校に赴任致しました。その間、電子機器の心臓部を担う半導体の新材料開発や半導体プロセス技術開発に携わってきました。赴任致しまして早くも２カ月が経とうとしていますが、学校・学生の雰囲気は、私が学生の頃と大きく変わらず、自由と自主性を重んじた校風で、学生が明るく活き活きしている様子が感じられます。しかし、学生当時お世話になった恩師の先生方から、“先生”と呼ばれる事には、未だに慣れません。今後は、教員として学生に分かりやすい授業を心掛け、ものづくりの現場で培ってきた経験を通じて得られた知識を学生に伝えていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

「もの」づくりから「ひと」づくりへ

制御情報システム工学科
西村　勇也

今年度４月から制御情報システム工学科でお世話になっております西村勇也と申します。私は大学卒業後、京セラミタ㈱にて５年半の間レーザプリンタの電装設計・開発を行って参りました。モノを作る仕事から、人を育てる仕事へ大きく変化し、本校で教員として勤めることに大きな幸せを感じております。これまで授業や部活動の顧問を通じて感じた熊本高専学生の印象ですが、生真面目で素直な面と、自由闊達な校風が奏功して、個性の表現力に長けている学生が多いと感じております。自由な校風の下で自律し、品位と誇りを持った学生生活を送ることは、今後の社会生活において非常に有意義なものになると確信しております。私の教育モットーは「何故という探究心をベースとした自発的学習」です。学生の興味を誘発させ、ドキドキ・ワクワクするような魅力ある授業・実験を目指し、日々精進して参ります。

熊本高専に赴任して

制御情報システム工学科
卜　楠

今年４月より制御情報システム工学科に着任しました卜楠と申します。高度化再編により新しくなった熊本高等専門学校の教員になって、非常に光栄に存じます。着任してから、毎日元気のよく自由な想像力を持つ学生達と接するようになりました。自分も学生からパワーをもらったように、日々楽しく生き生きと授業や研究活動に取り組んでいます。今年３月まで、私は産業技術総合研究所の研究員をしていました。産業界に近い研究所で研究を行い、産業現場共通課題の解決や実用的な産業技術の開発などが主な仕事でした。今年度は、基礎電気学、情報処理などの科目を担当しています。教育に関する経験がまだ少ないですが、自分の知識と経験を学生に伝え、社会で活躍できる人材を育てるように今後努力していきたいです。どうぞ宜しくお願い致します。

自己紹介

人間情報システム工学科
中野　満臣

今年度より、熊本高専熊本キャンパス人間情報システム工学科に助教として着任した中野と申します。

福岡県出身で、熊本は熊本大学に入学して以来今年で 10 年目になります。

熊本大学では、学部生時代から大学院生まで９年間を過ごしました。３月に大学を修了したばかりですが、熊本高専も今年度から新学科でのスタートということで、共に成長していきたいと思っています。

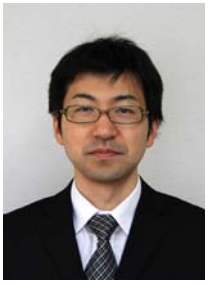
人生のもう一つの足場

共通教育科
遠山　隆淑

共通教育科講師（社会系）として赴任いたしました遠山隆淑と申します。九州大学大学院、同助手のあと、立教大学助教などを経て、５年ぶりに九州に戻って参りました。

高専は、自然科学系の技術や学問を修得する場です。とはいえ、「技」や「知」を真剣に追求する場合に立ちはだかる大きな壁や悩み・苦しみは、取り組んでいる対象にばかり没頭しても解決しない場合も多いようです。私の専門である西洋政治思想史を含め人文・社会科学系の学問は、理系分野に邁進する学生の皆さんにとって一歩引いた地点から自分が置かれた状況を捉える視点を与えることで、壁を突破するための大きなヒントとなるものを提供できると思います。人生において努力することの意味や悩み苦しむことの価値などを社会系の授業をつうじて伝えていきたいと考えています。

高専を眺めて



生物化学システム工学科
大島　賢治

他県の高専を卒業して 20 年経ち、前勤務先の熊本大学工学部から移動して４月に本校の准教授として着任しました。

熊本に来る前は長岡技術科学大学の職員として全国からの数多くの高専出身者と過ごし、また、博士号を得てから入った化学企業の大阪研究所でも、多様な経歴の本当に優秀な人々と働きました。長らく外から高専を眺め、高専出身者である自分を試してきた経験から、高専で学んでいる皆さんのお役に立つことができれば幸いです。

高専の外では学生も社会人も皆が競争しながら協力しています。自ら学ばない人は当然置いて行かれます。早く気付いて自分の手で必要な栄養を取ってください。最大限サポートいたします。

高専だから出来ること

生物化学システム工学科
最上　則史

４月より本校の講師として着任致しました最上と申します。私は、横浜市立大学大学院を修了後、関東圏内のいくつかの大学にて勤務して参りましたが、今回初めて高専において教育および研究活動を行う事になりました。

このキャンパスの第１の印象は、学内が非常に活気に満ち溢れている事です。それは、学生の皆さんの自立への意識が高いことの表れであろうと感じています。先輩後輩問わず、周りの人たちと切磋琢磨しながら、結果を恐れずに前向きにチャレンジしてください。また、学生と教員の距離が近いのもこの高専の特徴だと思います。教員とも大いに議論して自らの資質を伸ばす努力をしてください。

私も、社会の様々な問題を俯瞰できる人材を育成すべく、全力でサポートして行きたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

クラスマッチ風景（ドッジボール）

クラスマッチ風景（ソフトバレー）

新任挨拶

事務部長　　川﨑　信之

ことしの４月１日に熊本高専に赴任してきました川﨑です。よろしくお願いします。熊本高専で文部科学省関係機関は７カ所目になります。独立行政法人という名前を聞かれたことがありますか？いま、全国には１０４の独立行政法人があります。国立大学は１大学１法人なのですが、高専は全国の５１高専で１つの独立行政法人となっています。当然、熊本高専もそのメンバーの１つです。予算を見てみると、高専全体で約８４０億円あります。そのうち授業料として入ってくるのは約１６％に過ぎません。そのため約８割が運営費交付金という国の予算があてられています。この金額を学生数で単純に割りますと１人あたり１２０万円を超えています。５年間だと６００万円の税金が学生１人に使われていることになります。どうでしょうか、皆さんは国から選ばれた学生さんなのです。責任は重いですね。その分社会に出たらしっかり還元してください。

ところで高専の事務職員はどういう仕事をやっているのかご存じですか。学生関係の仕事は親しみ深いかもしれませんね。それ以外にも会計であったり人事であったりと様々な仕事があります。会計では、前に言ったように税金が投入されていますから細かな決まり事があり、国の会計制度に似た形で書類を作成しなければなりません。また法人になったことにより会社と同じような書類 (貸借対照表や損益計算書など) も作成しなければならないため皆さん忙しくなっています。人事関係だと平成１５年度までは国家公務員でしたから採用、処遇、給与等々かなりの部分が公務員と同じような取り扱いになっています。法人化したからと言って急激には変えられないのです。

会計では財務諸表等の作成が付加されています。・・と言いましたが、人事では法人化により労働基準法という法律の適用を受けることになっています。今までと違った決まり事が適用され、教職員からは働きづらくなったとの意見もちらほら聞こえてきます。しかしこれも法人化になったという時代の流れでしょう。

会計や総務の職員とは直接会うことは少ないかと思いますが、みんな高専のために頑張っています。よろしくお願いします。

事務部転入者一覧

◎学外からの異動

（氏　名）	（所属）	（前任地）
川﨑　信之	事務部長	佐世保高専
遠藤　真一	学務課長	佐世保高専
大平　和美	管理課長	九州大学
大平　正芳	総務課	熊本大学
野々原知香	総務課	熊本大学
積　寿美礼	総務課	熊本大学
赤星　正明	総務課	福岡教育大学
坂﨑　浩成	学務課	熊本大学
志柿　恵美	学務課	熊本大学
井口美由紀	管理課	熊本大学
猪島　幸	管理課	熊本大学
荒木　裕子	管理課	熊本大学
松岡　記代	管理課	熊本大学
新　正久	学生課	熊本大学
永野　正洋	学生課	熊本大学

○キャンパス間の異動

髙木　眞弓	総務課	(熊本→八代)
井上　精二	管理課	(八代→熊本)
堤　賢子	管理課	(八代→熊本)
西　岳彦	管理課	(八代→熊本)

ふるいピアノの力

保健室　山下智子／反頭昭子

2年前、図書館の改修により、視聴覚教室にあった古いピアノが龍峰会館（福利施設）に引っ越しして来ました。放課後、「猫ふんじゃった」等々、数々の名曲の演奏が、これまでも流れていました。

今年4月の文系クラブの発表会の前日の事、そのフロアーから流れてきたのが、ピアノによる「ジャズ」の生演奏でした。すごく良い気分でフロアー隣の保健室で聞いていると、そのうち、演奏が終わり、発表会の準備をしていた学生から、「ウオー」という掛け声とともに、みんなの拍手がしばらく、続いていました。突然の自然ライブの出来事に、隣の部屋にいて、感動した次第です。

和やかな放課後に、ジャズの調べ・・・いついつまでも、穏やかで、楽しいみんなの学生生活であることをこの時、瞬時に願いました。

古いピアノは、その後、何十年振りかの調律がなされ、今もフロアーの真ん中にいて、みんなの心の疲れを癒してくれています。床も木目貼りとなり、素敵な空間となりました。放課後の一時の時間を、貴方も龍峰会館で、過ごしてみませんか？そして、演奏してください。待っていますから。

放課後健康教室の開催について

★日時はいつでも。　★内容は何でも。

健康についての、いろいろな最新情報をお伝えします。是非、お出掛け下さい。

★定期健康診断のお知らせを配布致します。

治療勧告の方は、早期に病院受診をお願いします。

学生相談室より

学生相談員　濱田　さやか

平成22年度より、学生相談室員を務めている共通教育科の濱田です。どうぞよろしくお願いいたします。

私が学生の頃、ある先生のもとを訪ね、進路を相談したことがあります。先生は、しばらく話を聞いたあと、相談に来たときにはすでに本人がどうしたいかは決まっているとおっしゃりながら、いろいろと助言をしてくださいました。なるほど、言われてみると確かに決めていることに気がつきました。言われなければ、自分の気持ちに気づくことができなかったかもしれません。

しかし、決まっていないときもあるかもしれません。そんなときは、5年後や10年後の自分自身に聞いてみたり想像したりして決断、また明日考えよう！とか思ったりしています。

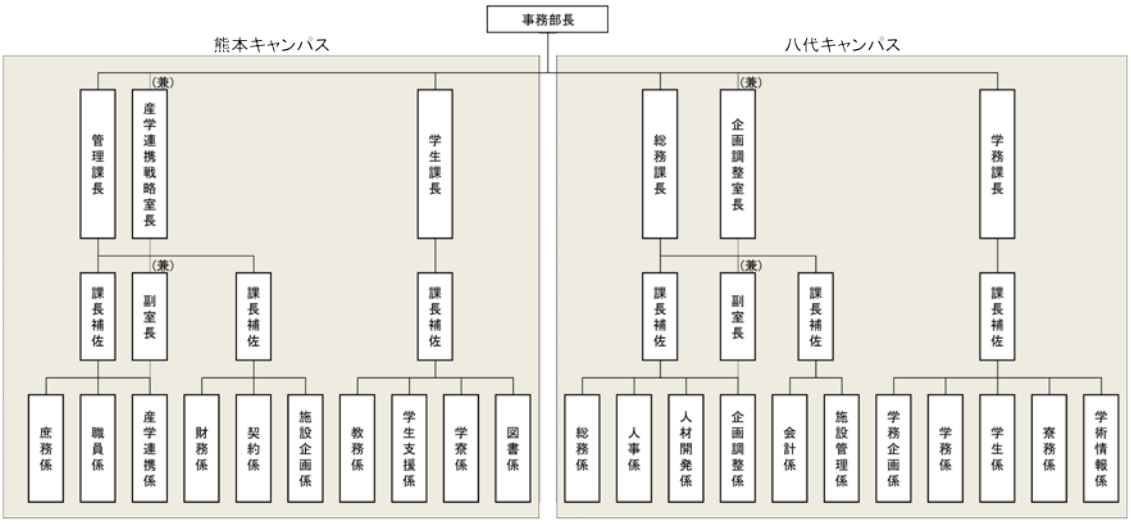
皆さんはいかがでしょうか。悩みやわからないことなどがあるとき、どうされていますか？
よろしかったら、気兼ねなく先生の部屋をノックしてください。気軽に来て頂けたらと思います。
私がどれほど皆さんに助言できるかはわかりませんが、皆さんと一緒にいろいろ悩み考えながら、解決への道を探りたいと思います。

事務部再編について

総務部

平成 21 年 10 月に高度化再編され、新しく熊本高等専門学校となったことに伴い、事務部も再編に向けた調整を行ってきました。そして、平成 22 年 4 月から八代キャンパスに庶務系業務を熊本キャンパスに会計系業務を集約し、新たな組織で（下記の組織図のとおり）スタートしました。

約 63 ㎞離れた両キャンパスをお互いの職員が行き来し、連絡・調整をしながら円滑に業務を進めていきたいと考えております。



平成 22 年 4 月以降　熊本高専事務部組織図

授業料無償化について

学務課

高等学校等就学支援金について

○**趣　旨**　家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、学生の授業料に充てる高等学校等就学支援金を創設し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

○**金　額**　高等学校等就学支援金額は、公立高校生が負担軽減される額と同額の月額 9,900 円 (年間 118,800 円) です。

○**該当者**　高等専門学校（1 ～ 3 年生が該当）

※年収３５０万円未満程度の世帯につきましては、加算支給届出書を申請することにより、さらに就学支援金が加算されます。（課税証明書に記載の市区町村税所得割額が 18,900 円未満 の世帯が対象となります）

○留意事項

・就学支援金の支給は、（休学・留学の場合を除き、）在籍 36 ヶ月までの学生を対象としているため、留年で在籍が 36 ヶ月を超える場合は、対象となりません。

・就学支援金は、学生又は世帯に交付されるものではなく、授業料から減額されるものです。

・本件については、申請主義の観点から申請しないと受給資格はありません。

熊本県工業連合会と包括連携協定を締結

熊本高専は、平成 22 年 3 月 16 日 (火)、熊本県工業連合会と包括連携協定を結びました。

この協定は、地域企業の人材育成、産学官協働教育、共同研究等を推進し、地域におけるイノベーション創出並びに地域社会の発展に貢献することを目的としたものです。今後、連合会と連携して、シームレスインターンシップや共同研究などに取り組み、企業と学生の関係を深めることで優秀な人材を熊本に残すことを狙いとしています。

今回の締結によって、新高専が県内企業との連携を一層深め、共同研究や社会人講座の充実、協働教育の実施など、地域産業界との連携をより一層進展させるきっかけとなることが期待されています。

第1回「わいわい工作わくわく実験ひろば」が開催されました

八代キャンパスの第 1 回「わいわい工作・わくわく実験ひろば」が、5/9（日）に、建築社会デザイン工学科と the plastic arts 部の担当で開催されました。

テーマは「モダンチェアのミニチュアづくり」で、オランダ近代の建築家ヘリット・リートフェルトがデザインした「レッド／ブルー・チェア」（1921）の 1/5 モデルを製作しました。

65 名の子ども達と保護者が参加しました。難しかったけど楽しかった、という感想をいただきました。

理工系学生科学技術論文コンクールで入賞しました

日刊工業新聞社主催、文部科学省後援の第 11 回理工系学生科学技術論文コンクールに、熊本キャンパスから 3 名の学生が入賞しました。大学生、大学院生と並んでの入賞で、本校学生の科学技術に関する関心の高さと論文作成力が高く評価されました。掲載論文につきましては、下記の第 11 回理工系学生科学技術論文コンクールのページをご覧ください。

○「地震大国「日本」の役割」：電子制御工学科 3 年 園木 雅文
http://rikokei.jp/09nyusyo13.html
○「一人一人にできること」：電子制御工学科 3 年 長岡 美智
http://rikokei.jp/09nyusyo14.html
○「アイディアの宝石と輝く未来」：電子制御工学科 3 年 森 琢磨
http://rikokei.jp/09nyusyo15.html

熊本高専

行事予定

8－12月

熊本キャンパス

8月
7（土）夏期オープンキャンパス
11（水）12（木）1，2年学年集会
13（金）～　夏季休業はじまり
11（水）～25（水）全国高専体育大会

9月
～30（木）　夏季休業おわり

10月
1（金）後期開始・授業スタート
1（金）～7（木）学位授与申請（専攻科）
16（土）～17（日）プロコン本選（高知）
17（日）ロボコン九州沖縄大会（久留米）
28（木）保護者懇談会
29（金）電波祭準備
30（土）～31（日）電波祭

11月
1（月）電波祭後片付け
13（土）高専フォーラム（専攻科）
13（土）～16（火）
九州沖縄地区高専体育大会（ラグビー、鹿児島）
21（日）ロボコン全国大会（国技館）
25（木）～12／1（水）　後期中間試験

12月
1（水）企業説明会
4（土）　冬季オープンキャンパス
9（木）　県下一斉テスト
23（木）～1／10（月）　冬季休業

八代キャンパス

8月
8（日）オープンキャンパス
11（水）全体会・HR・大掃除
12（木）～　夏季休業はじまり
11（水）～25（水）全国高専体育大会

9月
9（木）～11（土）保護者懇談会
～26（日）　夏季休業おわり
27（月）後期開始・授業スタート

10月
1（金）～7（木）学位授与申請（専攻科）
16（土）～17（日）プロコン本選（高知）
17（日）ロボコン九州沖縄大会（久留米）
22（金）　学校説明会（中学校向け）

11月
5（金）～8（月）高専祭
9（火）休講（代休）・専攻科学外研修
13（土）14（日）デザコン全国大会
13（土）～16（火）
九州沖縄地区高専体育大会（ラグビー、鹿児島）
21（日）ロボコン全国大会（国技館）
26（金）～12／2（木）　後期中間試験

12月
22（水）授業後、大掃除・HR・全体会
23（木）～1／10（月）　冬季休業

編集後記

「熊本高専だより」第３号をお届け致します。お忙しい中、ご寄稿いただきました方々に厚く御礼申し上げます。
「熊本高専」では、新学科の一期生を受け入れ、いよいよ新しい教育課程がスタートしました。本号では、4 月に挙行した「入学式」や新入生たちの声、それを迎える主事・共通教育科長のメッセージなどを中心に掲載しました。また、初めての試みとして、「校長と学生会の懇談会」を企画して、記事にしました。
参院選、Wカップサッカーも終わり、いよいよ夏休み。みなさん、前期末を乗りきり、充実した夏を過ごして下さい。

熊本高専だより　第３号

独立行政法人 国立高等専門学校機構　熊本高等専門学校
（熊本キャンパス）　〒862-1102 熊本県合志市須屋 2659-2
TEL 096-242-2121
（八代キャンパス）　〒866-8501 熊本県八代市平山新町 2627
TEL 0965-53-1211

熊本高専ホームページ　http://www.kumamoto-nct.ac.jp/
総務委員会　平成 22 年 8 月 発行